令和８年（2026 年）４月３日	
所　属	文化振興課
所属長	苅田　昭憲
電　話	06－6489－6385

A-LAB Exhibition Vol.51 土屋咲瑛「→第４の壁」を開催

１　趣旨

尼崎市が運営するアートスペース「A-LAB」（えーらぼ）において、第３回白髪一雄現代美術賞を受賞した土屋咲瑛による展覧会「→第４の壁」を開催します。

土屋は「日常で出会うある種の没頭のなかで、自らの存在感が薄くなる瞬間」をテーマに、地図、編み物、ドローイングなど様々な手法で作品を制作してきました。身近な例では、美しい風景に目を奪われたり、物語の世界に入り込んだりしている時などが、それに近い状態と言えるでしょうか。没頭しながらふと我に返ると、私たちはまるで舞台の外から別の自分を眺めるような不思議な感覚に襲われます。

展覧会のタイトル「→第４の壁」は、俳優のいる舞台と現実の客席を隔てる「見えない」境界を表す演劇用語に着想を得たものです。新作、近作を織り交ぜた展示空間の中で、作品の向こう側にいる作者と私たち鑑賞者は、それぞれどのような「私」のあり方を感じ取ることができるのでしょうか。不可思議でユーモアに満ちた、新進気鋭のアーティストの個展をぜひお楽しみください。

２　概要

展示名：「→第４の壁」
会　期：令和８年（2026 年）５月２日（土）～６月 28 日（日）
会　場：A-LAB（尼崎市西長洲町２-33-１）
時　間：午前 10 時～午後６時
休館日：火曜日（ただし、５月５日（火）は開館し、５月７日（木）は休館）
入場料：無料
主　催：尼崎市

３　関連イベント

⑴　トークイベント

篠原雅武氏（京都大学大学院総合生存学館（思修館）特定准教授）をゲストに迎え、出展作家とニュータウン―制作の原風景について話します。

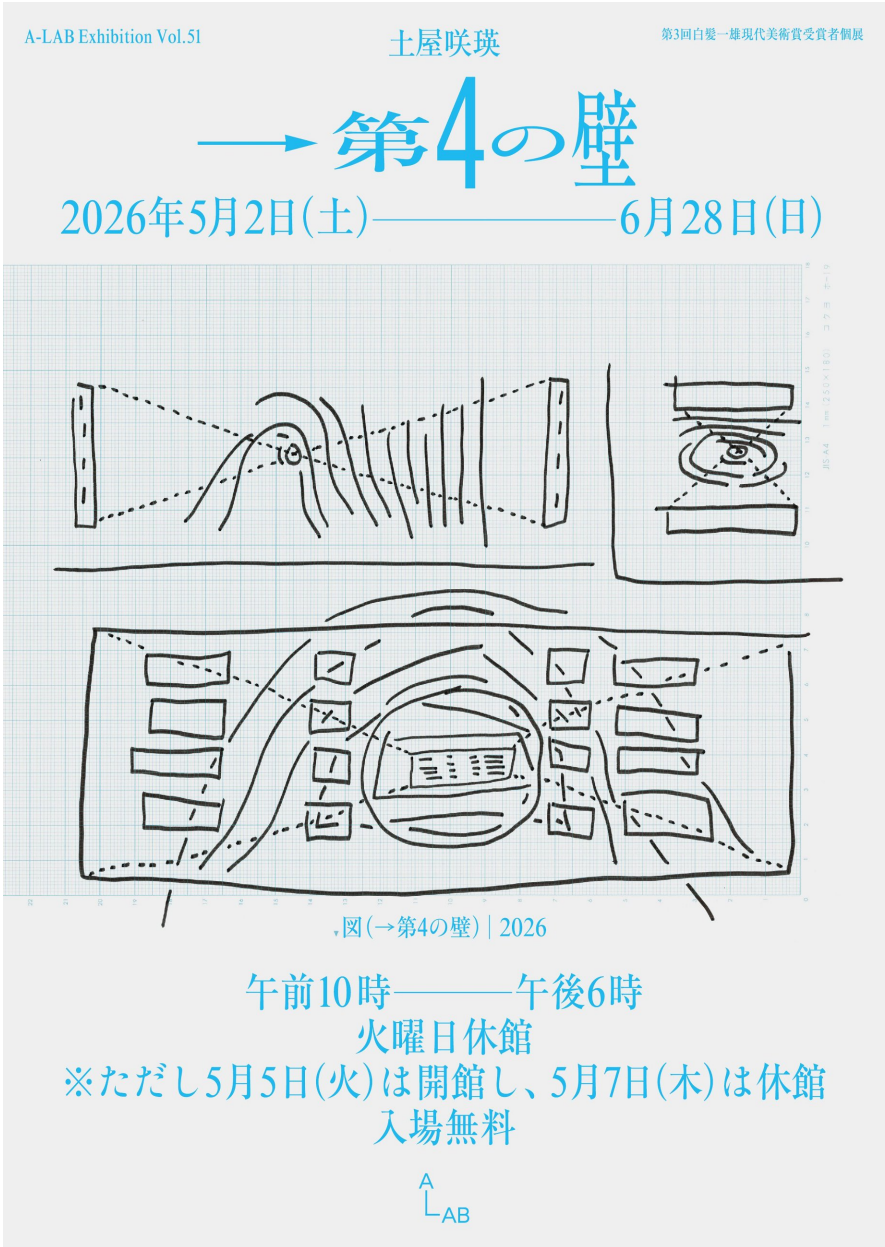
日　時：５月 16 日（土）午後２時～３時 30 分
定　員：先着 20 名
申込方法：メール（amalove.a.lab@gmail.com）で「イベント名、氏名、電話番号、人数」を明記の上お送りください。

⑵　作品解説会

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。（申込不要）
日　時：６月７日（日）午後２時～３時 30 分

以　上

A
LAB プレスリリース



会　　期	2026 年 5 月 2 日（土）～6 月 28 日（日）
開 館 時 間	午前 10 時～午後 6 時
会　　場	A-LAB（えーらぼ）　尼崎市西長洲町 2-33-1
休　館　日	火曜日　※5 月 5 日 (火) は開館し、5 月 7 日 (木) は休館
入　場　料	無料
主　　催	尼崎市

開 催 要 旨

第 3 回白髪一雄現代美術賞を受賞した土屋咲瑛による展覧会「→第 4 の壁」を開催します。 土屋は「日常で出会うある種の没頭のなかで、 自らの存在感が薄くなる瞬間」をテーマに、 地図、 編み物、ドローイングなど様々な手法で作品を制作してきました。 身近な例では、 美しい風景に目を奪われたり、 物語の世界に入り込んだりしている時などが、 それに近い状態と言えるでしょうか。 没頭しながらふと我に返ると、 私たちはまるで舞台の外から別の自分を眺めるような不思議な感覚に襲われます。

展覧会のタイトル「→第 4 の壁」は、 俳優のいる舞台と現実の客席を隔てる「見えない」境界を表す演劇用語に着想を得たものです。 新作、 近作を織り交ぜた展示空間の中で、 作品の向こう側にいる作者と私たち鑑賞者は、 それぞれどのような「私」のあり方を感じ取ることができるのでしょうか。 不可思議でユーモアに満ちた、 新進気鋭のアーティストの個展をぜひお楽しみください。

白髪一雄現代
美術賞について

尼崎市では、 既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術画家・白髪一雄氏にちなみ、 若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を顕彰し、 若手アーティストのこれからの活躍を応援しています。

ステートメント

自画像を描くことに、 ずっと違和感がありました。 自分からは見えていない自分の顔を描いて自分を示すというのは、 私にとってどこか自然でないことのように思えました。
演劇用語に「第 4 の壁」というものがあります。 舞台と観客席の間を隔てる架空の壁を指す言葉で、 現在は演劇に限らず、 例えば作品と鑑賞者との間にある画面や紙面を指すこともあります。
あらゆる私は作品の前で、 透明な第 4 の壁の前で、 ただでさえ私から見えていない自分なのに、 改めて透明を演じます。
絵を描く私、 見る私、 物語を読む内言、 地図の手前、 目の裏、 そういった、 第 4 の壁の向こう側で居ないことになっている“私”を描くことで、 私たちのことを指差したいです。

土屋咲瑛（出展作家）

関連イベント

①トークイベント

日時：5 月 16 日（土）午後 2 時～午後 3 時 30 分

篠原雅武氏（京都大学大学院総合生存学館（思修館）特定准教授）をゲストに迎え、出展作家とニュータウン ― 制作の原風景について話します。 定員先着 20 人。

②作品解説会

日時：6 月 7 日（日）午後 2 時～午後 3 時 30 分

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。

①はメール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。

イベント名、 氏名、 電話番号、 参加人数を明記の上、 お送りください。

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※ 5 ～ 6 ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。 下記の使用条件をご了承の上、A-LAB までお申し込みください。

使用条件：

・広報画像の掲載には各画像のキャプション、 クレジットを表示ください。
・トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
・アーカイブのため、 後日掲載紙、 URL などをお送りください。
以上、 ご協力の程、 何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前 10 時～午後 6 時　＊火曜日休館）
担当：田野、 北村
電話／FAX　06-7163-7108　メール amalove.a.lab@gmail.com
尼崎市文化振興課（平日：午前 9 時～午後 5 時）
担当：原田
電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■土屋　咲瑛（つちや　さえ）

Photo by 佐藤真優

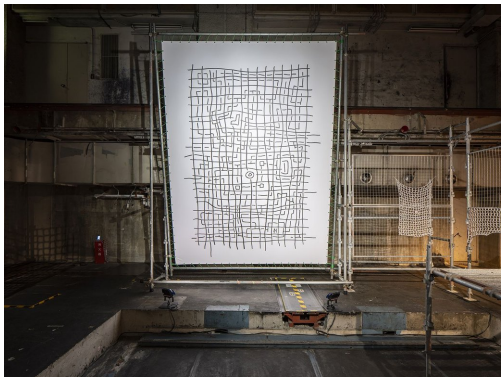
1999 年 大阪府生まれ
2024 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻油画 修了

自分からは見えない自分自身について、目の前にあるものを通じて捉えることをテーマに、主にドローイング、 既製品、 編み物、 アニメーションなどを使用したインスタレーションの形式で、 制作を行う。地図やパズル、 建物など、 一見かっちりしているが、 人が使うものであるがゆえにどこか歪みが生じるモチーフを使用することが多い。

【主な展覧会】
2021 年「隣の島」、 MEDIA SHOP GALLERY2、 京都
2021 年 「シェル美術賞展 2021」、 国立新美術館、 東京
2024 年 「アートアワードトーキョー丸の内 2024」、 行幸地下ギャラリー、 東京
2024 年 「A-LAB Artist Gate'24」、 A-LAB、 兵庫
2024 年　個展 「不可分な自分の領分→ぐるぐる→」、 ARTRO、 京都
2024 年 「Kyoto Art for Tomorrow 2025- 京都府新鋭選抜展 -」、 京都文化博物館、 京都
2025 年 「ARTISTS' FAIR KYOTO 2025」、 京都新聞ビル 地下 1 階、 京都
2026 年　個展 「パースのない事務はこちらをずっと向いている」、 茨木市立ギャラリー / みるば /Socio1/ 茨木市役所本館北側外壁、 大阪

【受賞】
2021 年　シェル美術賞 2021 入選
2024 年　Kyoto Art for Tomorrow 2025 -京都府新鋭選抜展 - ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 国際交流賞
2025 年　ARTISTS' FAIR KYOTO 2025 マイナビ ART AWARD　優秀賞
2025 年　第 3 回白髪一雄現代美術賞

参考図版

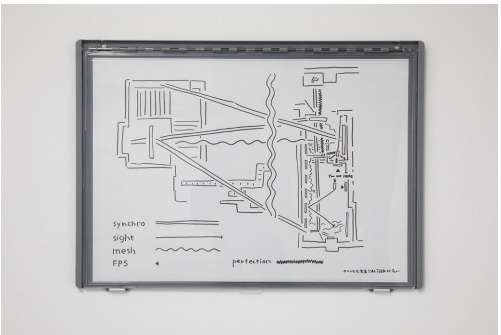


1

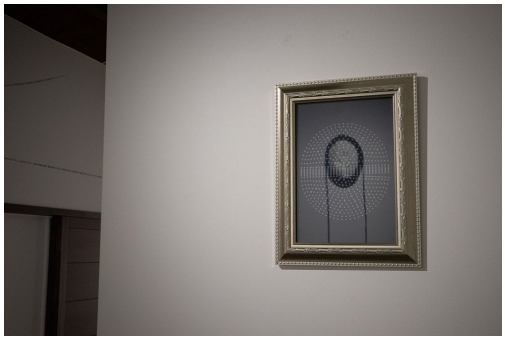
2

3

4

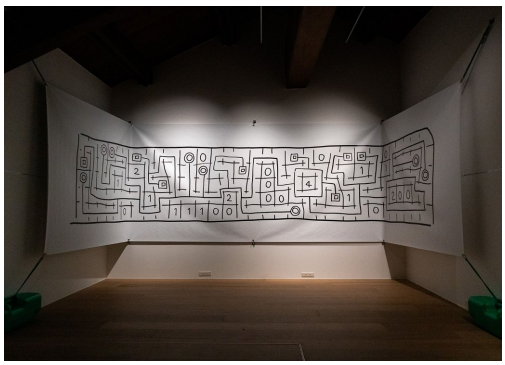


5



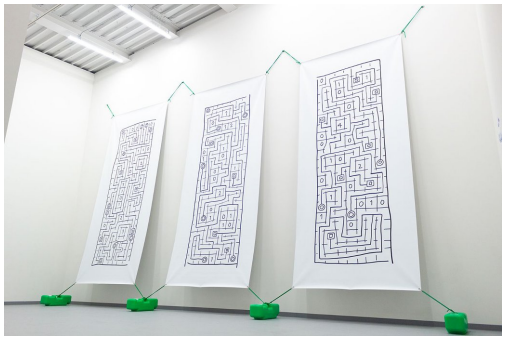
6

参考図版



7

8



9

1. 地図を通ってくる視線 | 2025　撮影：Kennryou GU
2. 通って進む視線の回廊 | 2025　撮影：Kennryou GU
3. パル | 2022
4. そら音『あたま山』（脳内醸成）| 2024　撮影：小林哲朗
5. 地図（メッシュ—ウェーブ—ゲイズと周辺）| 2024　撮影：小林哲朗
6. 個展「不可分な自分の領分→ぐるぐる→」展示写真 | 2024
7. 回路・プラスティック 30×5（1）| 2024

8-9.「ルームフルオブルールズ（スルー・ユー）」展示写真 | 2024

次回展

A-LAB Exhibition Vol.52

武雄文子 × 筒井夏鈴　二人展（仮）

2026 年 8 月 22 日（土）～ 9 月 23 日（水・祝）

2025 年夏、 尼崎市内の生涯学習プラザでワークショップを開催した『A-LAB GO+』に講師として参加したアーティスト、 武雄文子と筒井夏鈴による展覧会。

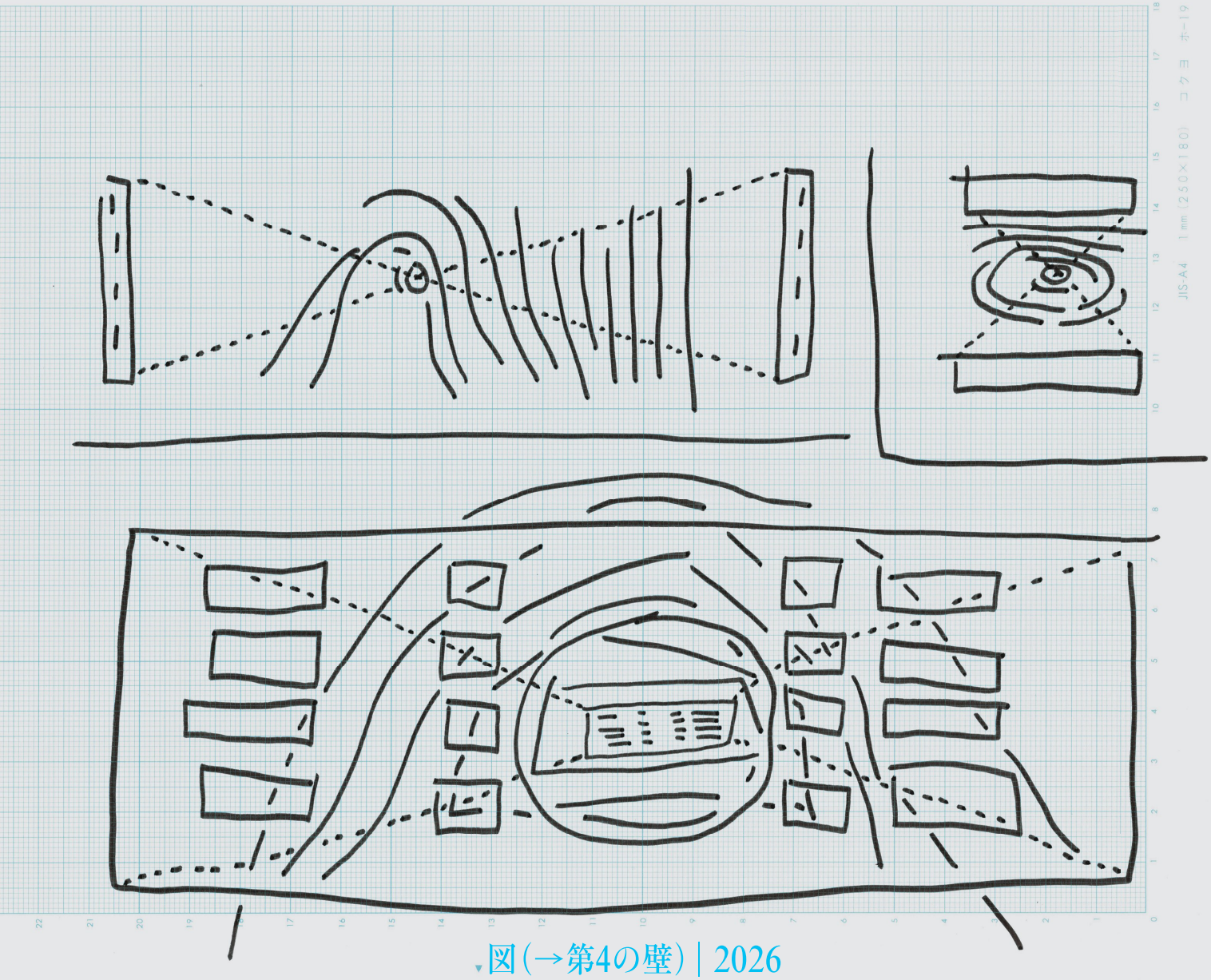
A-LAB Exhibition Vol.51

第3回白髪一雄現代美術賞受賞者個展

土屋咲瑛

→第4の壁

2026年5月2日(土)――――6月28日(日)



図(→第4の壁)｜2026

午前10時――――午後6時

火曜日休館

※ただし5月5日(火)は開館し、5月7日(木)は休館

入場無料

A
LAB

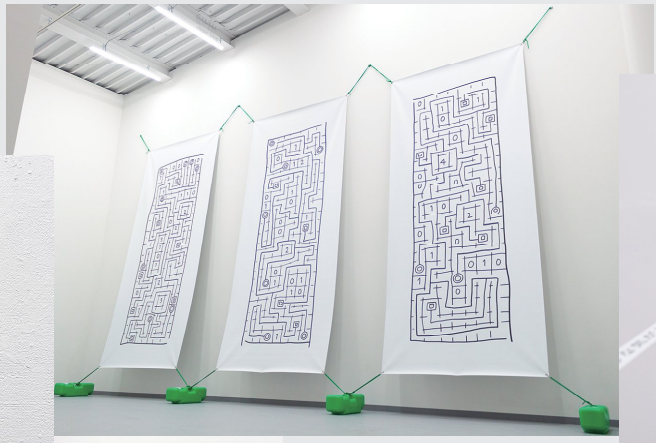
A-LAB Exhibition Vol.51

土屋咲瑛

第3回白髪一雄現代美術賞受賞者個展

→ 第4の壁

第3回白髪一雄現代美術賞を受賞した土屋咲瑛による展覧会「→第4の壁」を開催します。土屋は「日常で出会うある種の没頭のなかで、自らの存在感が薄くなる瞬間」をテーマに、地図、編み物、ドローイングなど様々な手法で作品を制作してきました。身近な例では、美しい風景に目を奪われたり、物語の世界に入り込んだりしている時などが、それに近い状態と言えるでしょうか。没頭しながらふと我に返ると、私たちはまるで舞台の外から別の自分を眺めるような不思議な感覚に襲われます。
展覧会のタイトル「→第4の壁」は、俳優のいる舞台と現実の客席を隔てる「見えない」境界を表す演劇用語に着想を得たものです。新作、近作を織り交ぜた展示空間の中で、作品の向こう側にいる作者と私たち鑑賞者は、それぞれどのような「私」のあり方を感じ取ることができるのでしょうか。不可思議でユーモアに満ちた、新進気鋭のアーティストの個展をぜひお楽しみください。

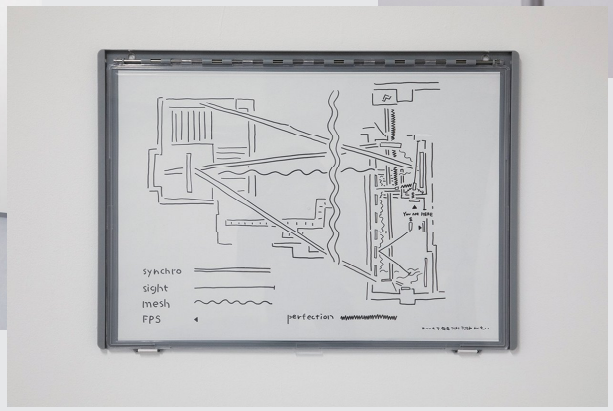


「ルームフルオブルールズ（スルー・ユー）」展示写真｜2024

そら音『あたま山』（脳内醸成）｜2024

パル｜2022

「ルームフルオブルールズ（スルー・ユー）」展示写真｜2024



地図（メッシューウェーブ―ゲイズと周辺）｜2024｜撮影 小林哲朗

自画像を描くことに、ずっと違和感がありました。自分からは見えていない自分の顔を描いて自分を示すというのは、私にとってどこか自然でないことのように思えました。
演劇用語に「第4の壁」というものがあります。舞台と観客席の間を隔てる架空の壁を指す言葉で、現在は演劇に限らず、例えば作品と鑑賞者との間にある画面や紙面を指すこともあります。あらゆる私は作品の前で、透明な第4の壁の前で、ただでさえ私から見えていない自分なのに、改めて透明を演じます。絵を描く私、見る私、物語を読む内言、地図の手前、目の裏、そういった、第4の壁の向こう側で居ないことになっている“私”を描くことで、私たちのことを指差したいです。

土屋咲瑛（出展作家）

イベント

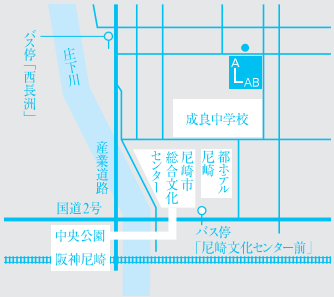
トークイベント
5月16日（土）14:00――15:30
篠原雅武氏（京都大学大学院総合生存学館（思修館）特定准教授）をゲストに迎え、出展作家とニュータウン―制作の原風景について話します。
会場｜A-LAB　定員｜20名　申込方法｜イベント名、氏名、電話番号、人数を明記の上、amalove.a.lab@gmail.comまでお送り下さい。

作品解説会
6月7日（日）14:00――15:30
出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。

出展作家　土屋咲瑛　Tsuchiya Sae

撮影 佐藤真優

自分からは見えない自分自身について、目の前にあるものを通じて捉えることをテーマに、主にドローイング、既製品、編み物、アニメーションなどを使用したインスタレーションの形式で、制作を行う。地図やパズル、建物など、一見かっちりしているが、人が使うものであるがゆえにどこか歪みが生じるモチーフを使用することが多い。
1999年大阪府生まれ。2024年京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻油画修了。主な展覧会に、個展「パースのない事務は透明なこちらをずっと向いている」（茨木市立ギャラリー／みるば／Socio1／茨木市役所本館北側外壁、大阪、2026）、個展「不可分な自分の領分→ぐるぐる→」（ARTRO、京都、2024）、「アートアワードトーキョー丸の内2024」（行幸地下ギャラリー、東京）、「A–LAB Artist Gate'24」（A–LAB、兵庫）など。2021年「シェル美術賞展2021」入選、2024年「Kyoto Art for Tomorrow 2025 ―京都府新鋭選抜展―」ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川国際交流賞、2025年「ARTISTS' FAIR KYOTO 2025 マイナビ ART AWARD」優秀賞、2025年「第3回白髪一雄現代美術賞」受賞。



A LAB
ama-a-lab.com
Facebook @amalove.a.lab
Instagram @alab_amalove

問い合わせ先　A-LAB｜TEL / FAX 06–7163–7108
尼崎市文化振興課｜TEL 06–6489–6385 FAX 06–6489–6702
住所　尼崎市西長洲町 2–33–1 ※会場に一般用駐車場はありません